

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案への市民意見募集の実施結果について

【横浜市の考え方】

- ① 御意見を踏まえ、原案に反映するもの ② 御意見の趣旨が既に素案に含まれているもの(賛同意見等含む)
 ③ 計画に記載していないが実施中(実施予定)のもの ④ 今後の検討の参考とさせていただくもの ⑤ その他

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
第1章 計画の趣旨			
1	<p>概要には基本的に同意です。自殺リスクの高い方や、40～50代のおそらく団塊ジュニアと呼ばれる、アメリカのLost Generationとは違った意味合いで『失われた世代』と呼ばれる人と推察される方たちへのカバー、私達若年層へ歩み寄った対策、存分に考えて行って欲しいです。基本認識も本質を突いていると思え、これまで私に見えていた公的なやり方からはかけ離れて練られていると感じました。もちろん、以前から練られてはいて、でもどうしても足りない部分が出てきてしまう、現実に対して手を伸ばせる限度や組織での意思決定の難しさなど様々な要因あつてのことなのだと思います。</p>	②	<p>計画作成に向けて引き続き努めてまいります。</p>
2	<p>自死遺族です。 対策計画をたて命を守る取組に対し自治体、国、たくさんの方々の力が1秒でも早く、結ばれる時と緊急と考えています。P2にある自殺対策の基本認識の部分において一般的な考え方、とらえ方はそうであると思います。ただし、実際にかげ離れている部分もあります。 基本認識の①についてはそのとおりだと思います。②について、同じ人でも環境によってはより生きられたと思いますので、取組によって防げるとは思います。ただ、取組のからまわり、誤った扱ひも感じます。(わが子の場合、いじめで苦しんでいるときに行われたアンケート、帰りの5分以内で書かされ、全く書けなかった、と言っていました。こういうとりこぼしも対策をしたことに含まれています。かえって傷つけてしまっています) ③家族や親しい人にはあえて言わない、明るくふるまうケースが大変多いです。サインが自死とつながるかどうかを見分けることは、今の厳しい社会の中で不可能に近いのが、大きな認識の違い。 ④数は減っても、失踪や変死に変えて増えているかもしれません。</p>	⑤	<p>本市においては、国の「自殺総合対策大綱」、また、神奈川県「かながわ自殺対策計画」を踏まえた基本認識のもと、総合的な自殺対策を推進してまいります。社会経済情勢の変化、自殺をめぐる諸情勢の変化等を踏まえ、状況に応じて、取組の見直し等を図ります。</p>
第2章 横浜市の状況			
3	<p>22ページの「こころの健康に関する市民意識調査」、70代以上が最も多いのと郵送形式というのが気になりました。今後似たような調査を行うのであればやはりネットで完結する手段も加えて欲しいと思います。4500人無作為抽出で有効回答1431の全体から31.8%、3割未満しか返ってこない方法に問題があると感じます。とはいえこれはこれで大事なデータであり、様々な傾向が見取れるので、仮にこの方法のままでも続けるのは重要だと言えるでしょう。 25ページの「相談機会や手法などの多様性を備えることが重要になると考えられる」、強く重視して欲しいと思います。このアンケート上での傾向は直接会うが高い割合になっており、多数派から外れて困っている方が多数求めるニーズを拾うのは大切でしょう。加えてその中でも会うという手段を取れない、あるいは他の手段の後に使いたいという少数派はいることが考えられるので、多様性を備えてしっかり拾おうとして欲しい。 気になったのが、アンケートで『電話やメール(LINEを含む)』と記載しているところで、電話とメールは大違いなコミュニケーション手段であり、LINEも全く性質が異なるものであるのにもかかわらず混ぜてしまっているところに、アンケートの策定者が『似たようなもの』と括って、よく『分かって』いないのではないかという危惧が浮かびます。</p>	④	<p>いただいた御意見は、市民意識調査を実施する際の参考とさせていただきます。 市民意識調査の結果をふまえ、多様かつ効果的な相談支援方法を検討してまいります。</p>

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
4	<p>素案の25頁にある「どのような方法で相談するか」の設定で電話やメール(LINEを含む)を利用してとありますが、電話とメールでは全く性格を異にする媒体であり、どちらに反応しているのか分からないのでは。</p> <p>つまりこの調査結果でインターネットを半数以上に利用可能性があるとするのは、乱暴の様な気がする、できるだけ直接会って相談していく事が望ましいとあるが、電話相談もそれに準ずる位置付けも検討すべきと考える。</p>	④	<p>いただいた御意見は、市民意識調査を実施する際の参考とさせていただきます。</p> <p>市民意識調査の結果をふまえ、多様かつ効果的な相談支援方法を検討してまいります。</p>
第3章 横浜市の自殺対策の方向性			
基本施策1 地域におけるネットワークの強化			
5	<p>ただでさえ地域コミュニティが縮小し、顔の見える関係が減少する中で、幅広い視野で孤独や障がいや生きづらさを抱えている市民が、その生きづらさに共感する幅広い属性の市民と交流し、共に活動する場を創出していく必要を感じます。</p> <p>場の維持管理の費用など、様々な困難はあるかと思いますが、誰もが「自分ごと」として問題を感じられるように、そういう価値観を広めるプラットフォームづくりが求められます。</p>	④	<p>いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。</p>
6	<p>広く困難を抱えている市民に対してのニーズに、寄り添う側の存在が足りていない現状が深刻であることです。</p> <p>プロモーション動画など啓発を進めて頂いている事は意義あることと思いますが、まだまだ足りていません。引き続き個人の信念や理想頼みでなく、広く支援者の担い手を確保出来るようなインセンティブも必要だと考えます。</p> <p>また、これはメディアの問題でもあるのですが、障がいや生きづらさを抱えている存在を紹介する時に、困難を抱えつつも努力し、結果を出している存在がフォーカスされ過ぎている事を懸念しております。</p> <p>困難を抱えている方々は、周りにはその努力や結果が見えづらけれど、それぞれ精一杯生きているのだと思います。</p> <p>正直、私ですら自分はこんなに歯を食いしばって努力しているのに「縁側でおしゃべりしているだけで…」のように感じることもあります。それがそれだけ困難が大きいのだと思っています。</p> <p>その中で、一部の頑張って結果を出している存在だけを社会が評価をすれば、困難を抱えている存在の中にさらなる階層・格差ができ、より自己肯定感を低めてしまい、そういう積み重ねが自殺へ繋がって行く要因となってしまう方も残念ながらおられるように感じます。</p> <p>分かりやすく言えばパラアスリートが昨今脚光を浴びていますが、先ず身体のハンデの方のみが脚光を浴びている事には疑問をもちます。頑張っているのは地域で生きている様々な困難を抱えている方々も同等です！</p> <p>なかなか難しいことではあるのですが、困難を抱えている存在に対しては誰もが社会の中で評価され、心から賞賛されるということが1番の生きる力になると感じています。地域の中で支援されながらも、誰もが社会に役割を求められ、評価される。</p> <p>そんな循環ができれば自殺対策に有効かと思えます。</p>	④	<p>あらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる「共生社会」の実現に向け、様々な取組を推進していきます。</p>
7	<p>相談事業を行っている公的機関及び民間団体でのサポートネット的な集まりなどの企画を行政でお願いしたい、自殺の原因が多岐にわたるのであれば、相談を受ける受け手の知識も多岐にわたる必要があればと願っています。</p>	④	<p>地域におけるネットワークの強化のため、市内を中心に活動する関係団体等と行政で構成する「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」にて、自殺対策に関する情報や各団体の取組の共有を進めることで、連携を深めてまいります。</p> <p>いただいた御意見は、今後の手法検討の参考とさせていただきます。</p>

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
8	(1)「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」の開催 同協議会に市民団体、当事者団体の参加の要請。 (2)「横浜市内自殺対策連絡会議」の開催 同連絡会議への当事者団体の参考人参加を求める。(理由)当事者団体としての情報を市の関係局と共有することで、より現状に即した対策協議を実現できる。	④	いただいた御意見は、今後、地域ネットワークの強化に向けた手法検討の参考とさせていただきます。
9	自殺対策というどのようなことをすればよいのかイメージがわかりませんが本市の自殺の特徴をしっかりと分析して、対策をしてゆくという考え方は大事だと思います。	②	計画作成に向けて引き続き努めてまいります。
基本施策2 自殺対策を支える人材「ゲートキーパー」の育成			
10	ゲートキーパーの重要性が謳われているが、目標数値が低すぎると思う。市民の0.5%にも満たない18,000人では心許せないと考ええる。 又、内容的にも聴くという事を重要視して欲しい。座学より、傾聴ノウハウ取得に重点をあてて欲しい。傾聴のノウハウを有する大学や教育機関や相談事業をやっている団体などの協力を得て、積極的に推進して欲しい。 地域におけるネットワークにもゲートキーパーの代表をとりこんでいくことも大切と考える。ゲートキーパーと直に触れる(対面・電話・チャット)様にできれば良いと思う。一人でも多くの人の参加を心から望みます。	④	様々な悩みや生活上の困難を抱える人に、誰もが早期に気づき、対応ができるよう、いただいた御意見は、今後、ゲートキーパー養成研修等を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
11	(1) 市民や地域で活動される方を対象とした研修の実施 知識やロールプレイの講義だけでなく、当事者の語りを聞く機会や自助グループなどの当事者団体の活動を周知する内容を取り入れて欲しい。(理由)当事者団体参加者を対象にした聴き取りで「ゲートキーパー」を誰も知らなかった。ゲートキーパーの位置づけや周知を再考する時期にきている。またゲートキーパーの養成過程において、対象理解と同時に、他人事ではない真の寄り添いが大切となってくる。行政担当者や支援者の心ない言葉に傷ついたという話は、分かち合いの中でよく出てくる話題である。	④	いただいた御意見は、今後、ゲートキーパー養成研修等を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
12	(2) 相談窓口に携わる支援者を対象とした研修の実施 研修プログラムの中に、当事者の声を聴くプログラムを取り入れて欲しい。(理由)当事者団体の中で語られる「支援者と当事者の間にある問題や関わり方」を事例としてダイレクトに学ぶことができる。	④	いただいた御意見は、今後、ゲートキーパー養成研修等を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
13	ゲートキーパーは、「身近な見守り役」とのことですが、市役所の職員や民生委員というのは、身近な存在なのでしょうか。コンビニとかスーパーとか、近所で行くお店などの店員さん、学校の先生などがゲートキーパーになれるような研修があったら、きっと身近な人が支えになってくれる気がします。	②	本市では、民生委員などの地域支援者の方や一般市民を対象に地域の身近な方がゲートキーパーになっていただけるよう研修を実施しています。できるだけ多くの方にゲートキーパーになっていただけるよう、引き続き、普及啓発や研修を実施してまいります。
14	私もゲートキーパーになり少しでもお手伝い出来ればと思っています。ただ、年齢が70才なので、だめかしら。	②	1人でも多くの方に、ゲートキーパーとしての意識を持っていただき、専門性の有無に関わらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こしていくことが自殺対策につながると考えます。
15	簡単にとめられる問題ではない。ゲートキーパーという言葉のイメージがよくない、その人にまかせさえいけばよいというイメージがわかりやすい。今まで関わりのなかった人々に、人間はいつでも自分から死んでしまうことはある、それは自分かも知れないことを周知させて、偏見をとりのぞき、そのような自体におちいった人が、誰かにそれを伝えることができるよう、自覚と周りの支援が必要。	④	様々な悩みや生活上の困難を抱える人に、誰もが早期に気づき、対応ができるよう、いただいた御意見は、今後、人材育成・普及啓発を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
16	ゲートキーパーを育成していくためには、他人の気持ちを分かなければならないと考える。顔を見て声を聞いて苦しんでいる人に寄り添える人間性豊かな人を。そういう人は何も自殺対策だけではなく認知症の人を地域で支える人にもなり得る筈。是非連携を考えてみて欲しい。支援チームも必要なのでは。	④	今後も自殺対策を支える人材として、様々な悩みや生活上の困難を抱える人に対して早期に「気づき」、必要な支援につなげる「ゲートキーパー」の育成に取り組んでまいります。
17	概要版のあるような、ゲートキーパー研修は受けられても実際に生活する中で気づけるようになるには、それなりの情報を得られるようなシステムが必要だと思います。	④	いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。
18	基本施策について ゲートキーパー育成の重要性には同意しますが、育成数増加の方法について具体案の記載が必要ではないでしょうか。 研修によって育成数を増加される想定かとも思いましたが、例えば、神奈川県で自殺対策基礎研修の受講者数を確認したところ70名とのことで、目標数値18,000人に到達することは極めて実現困難ではないかと感じます。方法についてより具体的な記載があればと思います。 また、育成数の内訳についても想定されてはいかがでしょうか。 内訳とは例えば、市の職員、民生委員、一般市民などで、それぞれ何%といったものです。ゲートキーパーの性質上、さらに人数という観点から、一般市民への普及が、自殺者数を減少させる効果が見込めると考えられますので、一般市民の育成数を増やすための施策、例えば市民講演会の機会の増加や、ネット等で過去の事例を公開し共有するといったことに、力を入れられるような方法もあるかと思っています。	④	本市では、区役所やこころの健康相談センター等で民生委員などの地域支援者、関係機関の相談員、一般市民や市職員を対象に自殺対策に関する研修を実施しており、昨年度は延3,411人の方に受講いただきました。 引き続き、自殺対策研修を実施することで、多くの方にゲートキーパーとなっていただけよう努めてまいります。 いただいた御意見については、今後、ゲートキーパー養成研修等を実施する際の参考とさせていただきます。
19	通信手段の進歩に振りまわせられない様にしてほしい。スカイプTV電話・チャットアプリ・インターネット・メール・WEBなどなど。人は相談する時に身ぶり手ぶり・目計・口計・言葉・文字を使ってするが、感情にどう向き合うかが源。ツールではなく相談を受ける相手の感情を受ける人が必要。ぜひこういう人をたくさん育成してほしい。新聞・雑誌・TV・ラジオでも相談があるが、商業主義ではない相談。そういう相談できる人を期待。	②	自殺対策の推進には、本市の自殺の状況や自殺をめぐる諸情勢、社会全体の状況の変化などを踏まえた対策が必要であると考えます。 本計画においては、若者等の特徴を踏まえ、インターネットを活用した情報提供・相談支援の取組を進めるなど、電話や対面相談も含めた相談支援の強化に向けて、検討を進めてまいります。
20	ゲートキーパーとして市職員ひとりひとりがゲートキーパーでもあるとして養成してきたようですが、さらに、若者ひとりひとりがゲートキーパーでもあることを目指すのはどうでしょうか。また、受講した人数だけに満足するのではなく、受講生がその後も常にゲートキーパーの意識をもってもらうようなアンケートも必要ではないでしょうか。	④	いただいた御意見は、今後、ゲートキーパー養成研修等を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
基本施策3 普及啓発の推進			
21	自殺により家族、友人などに、精神的以外にも経済的に多大な迷惑をかける事を、自殺される方に強くアピールできる広報も、自殺防止に効果的かと思えます。	⑤	自殺に追い込まれると危機は「誰にでも起こり得る危機」であり、自殺は身近な問題であることや、メンタルヘルスなどの様々な要因が重なりあって自殺につながっていく実態を知ってもらうこと、また、危機に陥った場合には誰かに援助を求めることが適当であるということが、社会全体の共通認識になるよう普及啓発を推進してまいります。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
基本施策4 遺された方への支援の推進			
22	自殺未遂や自殺死亡率を減らすことはもちろん大事だが自殺者の家族など周囲の人へのサポートにも力を入れる施策を望みたい。	②	自死遺族の方々の負担が少しでも軽減されるよう、支援を進めていくことが必要であると考えます。今後も引き続き「自死遺族のつどい」を開催するなど、遺された方への支援を推進してまいります。
23	自死遺族の方々の相談援助に関わっております。計画案の遺された方々への支援について「自殺で身近な人を失った」という表現がありますがHPなどにあります様に遺された方々への心情を思うと「大切な人を亡くした」という表現の方が適切ではないかと感じました。	①	自死遺族の方々にとって「身近な人」であっても「大切な人」であっても、死別によって沸き起こる苦悩や葛藤が生じることにはかわりがないと思いますので、両方の表現を用いることにいたします。
24	(1) 自死遺族など遺された方への支援 民間で活動している自死遺族支援団体との連携、支援の充実を要請する。(情報の共有・場の確保・資金援助など) 遺された兄弟・姉妹をフォローする場が横浜市内にないので、市の政策としてそのような会を開催して欲しい。 (2) 自死遺族への適切な情報提供の検討 (3) 自死遺族に対する個別支援の実施 (2)(3)に関する手法・対策の検討に、自死遺族の当事者団体の参画を要請する。	④	本市としましても、自死遺族の方々の負担が少しでも軽減されるよう、必要な情報提供の方法について、検討を進めてまいります。御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。
25	大切な家族を自死で亡くしました。とてもつらい気持ちを分かち合える場所は今後も必要だと思います。ぜひ引き続きの開催を強く願います。	②	自死遺族の方々の負担が少しでも軽減されるよう、支援を進めていくことが必要であると考えます。今後も引き続き「自死遺族のつどい」を開催するなど、遺された方への支援を推進してまいります。
26	自死遺族支援をしている者です。 ”第3章 基本施策5の遺された方への支援の推進”では”身近な人を失った”とありますが今までのように”大切な人”とした方がご家族を亡くされた方のお気持ちを考えると、適切ではないかと思えます。	①	自死遺族の方々にとって「身近な人」であっても「大切な人」であっても、死別によって沸き起こる苦悩や葛藤が生じることにはかわりがないと思いますので、両方の表現を用いることにいたします。
27	横浜自殺対策計画の拙い意見です。 私は 娘がなくなる前に 何気なく見ていたニュースの特集で自死遺族会があることを知っていました。まさか自分がそういう会に参加する日が来るとは全く思っていませんでしたが、その時番組内でこの会で救われたという遺族の方の話が頭に残っていました。娘が突然自死で亡くなり、私が当事者になって藁をつかむおもいでネットで遺族会を探しました。 私は現在参加している自死遺族会で本当に救われました。その会に行っていなかったらどうなっていたらと思うます。 まだまだ毎日が辛く苦しい日々ですが 遺族会に参加することで自分一人ではない、みんながんばっていると思えます。先を歩く方々の言葉で力を貰えます。 私はたまたまテレビでこの遺族会を知っていましたが、遺族会があることを知らずに一人で苦しんでいる方が 多くいらっしゃると思うので、何らかの方法で告知できるとよいと思います。	②	本市としましても、自死遺族の方々の負担が少しでも軽減されるよう、必要な情報提供の方法について、検討を進めてまいります。
28	身近な人が自ら死を選んでしまった時、のこされた家族、友人、知人誰もが遺族となりうるので、フォローする場所が増えることが大事です。そよ風等の遺族支援の場が増え、プライバシーが守られること、遺族は社会と隔離されてしまうので、社会とつながれる場が増えるとうい。	②	自死遺族の方々の負担が少しでも軽減されるよう、支援を進めていくことが必要であると考えます。今後も引き続き「自死遺族のつどい」を開催するなど、遺された方への支援を推進してまいります。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
29	<p>自死遺族への相談活動を行っている者です。 基本施策4「遺された方への支援の推進」の文章について、「身近な家族や友人を自殺で亡くされた方への～」となっておりますが、身近というだけでなく、「重要な」「大切な」等のことばを入れて頂いた方が、当事者にとっては、より親身さが感じられるのではないかと思います。ご検討頂けましたら幸いです。</p>	①	<p>自死遺族の方々にとって「身近な人」であっても「大切な人」であっても、死別によって沸き起こる苦悩や葛藤が生じることにはかわりがないと思いますので、両方の表現を用いることにいたします。</p>
30	<p>「素案」読みました。 一言で言えば、なんだかなあという所が正直な感想？です。(株)横浜市が 長期の売上目標を打ち立て、それを達成するためのデータ収集・営業計画！！？「本気で自殺を考えた」とありますが、本気の基準がわかりません。 39 ページに「自ら進んで自殺する人はいない」と断言していますが一人ひとりの心の内まで社会が面倒見てくれると言うのでしょうか？ 意気込みは分かります。でも、ただ綺麗事を書き連ねているだけのように感じてしまいます。何故なら そこには「心・優しさ」が欠けているからです。 ゲートキーパー初めて聞きました。 誰もがゲートキーパーになれば、きっと柔らかく温かい社会に変わると思います。今、横浜市に限らず日本の根本的な部分がおかしくなっています。 幸福とはなにか自分が何をを目指しているのかが皆画一的になっています。 政治により操作されています。 土台となるものが変わらない以上、ゲートキーパーは難しいのでは・・・結局「横浜市の自殺者」の数を減らしたいだけなのでしょうね。データの収集・解析 お疲れさまでしたという感じです。 政治に行政に期待できないと言いながらの提案ですが、家族は自分の気持を共有してほしいと思っています。もちろん私もそうです。 私は、会に会えましたが「分かち合いの場」の存在を知らずに苦しんでいる人もいないのでしょうか自殺者数を減らすことも大切ですが、家族に「場」のことを知ってもらうこともとても大切で必要です。例えば、病院から家族に「こんな場がありますよ」とそっとメモを渡す その時には混乱状態ですが、あとでメモを見るかもしれない。 警察からでもよいと思います。 ネット環境が整っている時代ですが、自ら調べる気力もない時に「私はひとりではないのだ」とわかってほしいので。後追いが減るかもしれない。 素案に自殺者と書いてあるので、私も敢えて自死と言わず自殺と言いました。</p>	②	<p>本市としましても、自死遺族の方々への負担が少しでも軽減されるよう、必要な情報提供の方法について、検討を進めてまいります。</p>
基本施策5 様々な課題を抱える方への相談支援の強化			
31	<p>インターネットを活用して普及告知をするとともに相談の受付や初期相談を行うことができます。うつ病や自殺を考えてる人は相談する力自体が乏しいです。どこに相談して良いか分からなかったり、どう相談していいかわからないのです。ネットを使って相談窓口を確定したり、初期相談ができる体制を作ることは大変有効です。電話をするよりネットの方がハードルが低いからです。十分な予算をつけてネットを使った告知と初期相談が体制を整えましょう。予算を作ることで 将来的な資源にもなります。資源というのは相談者からのデータです。どのような相談が多いのか、どう相談してくるのか、どこのエリアからの問い合わせが多いのか。ネットからの相談ですとこの辺りをデータ化することができます。データができますと、今後の対策もとりやすくなります。</p>	②	<p>効果的な相談手法・情報提供を実施するにあたり、インターネットの活用は有効な手段の一つであると考えます。 引き続き、インターネット等を活用した相談支援方法の構築・実施に向けて検討してまいります。</p>

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
32	全体に対して、仙台で発足した「みやぎの萩ネットワーク」のようなネットワークを横浜市でも作りたい。川崎市は精力的に活動をされているので、横浜市でも民官協働のネットワークの検討をお願いしたい。	④	いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。
33	外国人への相談対応は、人員、コストを考えると大変難しいと思います。ここは、すでに外国人と付き合いが深い民間の団体を活用したり、問い合わせ窓口をネットで一元化するとコストを減らせると思います。	③	「社会福祉法人横浜いのちの電話」が実施している外国語相談事業に対し事業費を助成し、外国語を母語とする市民に対する福祉保健の向上を図っています。
34	死にたいと思っている人の電話相談の充実 24時間やっている「命の電話」をやる人が減っていると聞く。研修を行い、ボランティアでなく、職員として配置して欲しい。いつでも相談できるよう、電話番号を広報で宣伝してほしい。	④	「社会福祉法人横浜いのちの電話」は研修を受け認定されたボランティアにより電話相談を行っている団体です。いただいた御意見は団体へ情報提供させていただきます。
35	健康問題の自殺が多いので、電話やメールでの健康相談ができる相談窓口の設置。	③	こころの健康や生活習慣病等の健康問題に関する相談を各区福祉保健センターにて実施しています。電話や窓口等での相談をお受けしています。
36	問題を抱える人の相談場の拡大、精神医療の発展(カウンセリング含む)に期待します。	②	引き続き、区高齢・障害支援課等における相談支援の充実を図るとともに、様々な悩みに応じた専門的な相談支援へつなげる情報提供を進めてまいります。
37	電話相談している立場から言うと、本当に心の病の病気の人が多いこと、物質的な依存がある人が多いこと、一日中誰とも話をしない年配者が多いこと、幼少時代の親子関係に縛られている人とりわけ女性が多いこと、苦しみが長く続いている自死遺族が多いこと、自殺企図自殺未遂の経験者の多いこと、生活保護や障害年金だけで苦勞して生活している人が多いことに、介護生活に疲弊している人の多さやDVにおびえて暮らしている人の多さなどにビックリさせられている。 また、一日に何回も電話をかけてくる人が多いこと、電話をかけてくる人が多いのにも拘らず、繋がらないままにいる人が多いことには、心を痛めています。何とか、多くの人の気持ちをお聞きして、寄り添っていききたいとの思いと裏腹の状態。 電話相談が数多くあるのは承知しているが、深夜でも、休日でも、正月でも2~3回かければつながるような電話相談を実現して欲しい、ワンストップサービスで第一義的になんでも相談ができる機関が必要と感じる。まずは、今おかれている事態を把握し、その後専門相談につなげるシステムを作って欲しい。公的機関だけでなく、民間も含め、こういう相談については〇〇〇、またこういう相談は△△△という風な一覧表があると非常に助かります。	②	各区生活支援課の相談窓口においても複合的な悩みを含む相談を受け付けております。相談内容が多岐にわたり複合的な課題のある場合は、ひとつの相談窓口では対応しきれない場合もあります。そのような場合も相談者の方と共に解決方法を考え、相談内容によっては他課や他機関につなぐようにしております。 また、自殺の危険性を示すサインに気づくとともに、早期に相談者の悩み等に応じた適切な支援につなげるために、各相談窓口の職員に対する研修等を実施していきます。
38	市職員が市民のゲートキーパーになることを目指して下さるのは、大変有難く、頼もしい限りです。自殺予防の方法として各々の課題について相談できる行政窓口がこれだけたくさんあることは心強いことですが、市民の心が安定している時に、これらの情報については知っておくことが必要だと思います。ただし、自殺を考える時点では、適当な相談先を自ら探すことは困難ですから、「死にたくなったら、とにかく〇〇へ連絡を！」というような緊急時の受け止めができる行政窓口もあれば、救える命もあるかも知れません。	④	自殺に追い込まれると危機は「誰にでも起こり得る危機」であり、危機に陥った場合には誰かに援助を求めることが適当であるということが、社会全体の共通認識となるように、普及啓発を推進していく必要があると考えます。 いただいた御意見については、普及啓発や相談支援等の施策検討の参考とさせていただきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
39	自殺対策にも、介護保険のケアマネの様な制度があればと思います。自殺の原因が多いとのことですので、一人の人に相談するだけでよいとなると相談しやすくなります。生保は区役所、サラ金は法テラス、アル中は保健センターなど分かれているとそれだけでも疲れてしまいます。なんでも相談窓口が欲しいです。	②	本市では各区生活支援課に生活困窮者自立支援制度に基づく相談窓口を設けています。生活困窮者自立支援相談窓口では、経済・生活および健康問題等自殺に追い込まれる要因となり得る複合的な問題を抱える方に対する最初の相談窓口になる可能性があります。自殺の危険性を示すサインに気づき、早期に適切な支援につなげるため、引き続き、生活困窮者自立支援事業と自殺対策事業の連携を強化するとともに、各相談窓口の職員に対する研修等を実施していきます。
40	高齢者はインターネットやスマホを使いこなせない人も多いだろうから電話相談の窓口を増やしてほしい。私のように機械が苦手な者も居る。インターネットより本当は人間と人間のふれあいができれば良い。 人の声のあたたかさに救われることがあるのだ。インターネット・スマホの普及は人の感情と思考と感情を育てず、むしろ殺していると思われる。	②	様々な悩みの解決に向けて、相談支援の充実や各種専門相談窓口の情報提供を進めてまいります。
41	若い時、学生カウンセラーを経験した事があります。 ・お金が不足で十分な食事をしていない ・学力不足 ・周囲の人との関係悪化 だいたい三つの中のどれかに悩みをかかえていたように思います。 解決策は、本人の心を動かせるかどうかです。(個人の心をゆさぶる)対面では時間と場所と人材が必要です。それを少しでも安く、しかも遠くの人々ともしたいのなら、24時間、TELの受け付けを、コンビニの一角にでも設置してはどうでしょう。	④	いただいた御意見は、今後、若年層への相談支援を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
42	周囲のゲートキーパーがいる人やネット上に助けを求められる人、医療機関につながっている人は、支援が可能だが、周囲に変化を気付いてもらえない人は支援が困難だと思う。しかし、そのような人を探し出し声を掛けていかないと自殺件数はなかなか減らないのではないかと。また悩んでいる人にどのように気付いていくのかもっと具体的に教えていただけたら良いなと思いました。	②	家族や友人、会社の同僚、地域の知り合いなど地域の身近な方々の誰もが困難を抱える人の変化等に早期に気づけるようにしていくためには、研修の実施や普及啓発を継続して行うことが必要と考えております。引き続き、研修等の機会を通して、人材育成、普及啓発を推進してまいります。
43	自殺する人の背景に障害(特に発達・高次脳)に起因する人がどれくらいいるのかデータで出してほしい。 LGBTなどの対策はしているようだが、発達や高次脳機能障害の人への対策を考えることも必要では？	④	現段階では、発達・高次脳等の障害種別に起因する統計はありません。相談窓口として、発達障害者支援センターや、各区の中途障害者地域活動センター内に高次脳機能障害者専門相談を設けています。
44	産後うつによる自殺には触れていますか？ 妊娠中から産後1年未満に死亡した女性の死因の約29%は自殺との報道がありました。赤ちゃんとの生活は、24時間休みなし。目を離すことはできないし、まとまった睡眠をとることもできず、今までの生活とは完全な別世界に放り出されます。夫が非協力的だったり、頼れる親や兄弟が身近にいないれば孤立します。ただでさえ、産後は体力がガタ落ちしていたり、ホルモンバランスが激変したりしているので、極度の睡眠不足が続けば簡単に危機的状況に陥ります。区や地域の方が必ず個別訪問するけど、これは本当に大切なことだと思います。もし妊婦～産後の女性に言及していないようなら、ぜひ盛り込んでください。死に支度までした、産後うつ経験者からのお願いです。	②	産後うつについては、大変重要な課題と考えています。 計画では、施策5「様々な課題を抱える方への相談支援の強化」の中で言及し、関連する事業として、「産婦健康診査事業」及び「産後うつ対策事業」を実施しています。 今後も、産後うつの早期発見と早期支援に向けて取り組んでいきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
45	いじめは受ける年齢により、精神疾患となるケースも多く見られます。一度服薬を始まると大変な人生を送ることにもなり、その場合でも家族、地域は重要なカギ(良くも悪くも)を握っていると思います。理解者の存在が救いの一手と思います。	②	自殺が身近な問題であることや、対象者の心情や背景への理解、危機に陥った場合には誰かに援助を求めることが適当であるということが、社会全体の共有認識となるように、積極的な普及啓発に努めてまいります。
46	自治体の各種相談窓口で自殺ハイリスク者の情報共有を可能とする仕組みを構築していただきたいと願っています。	④	いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。
47	単身独居の老人が増加している現在。一日中引きこもって誰とも話しをしない人が増えている。こういう人達と社会とのつながりを助ける方法がないだろうか考える。 民生委員の人も寄せつけないマンション暮らしの人、配偶者に先だたれた人(特に男)の生きる意欲の減退、緩慢な自殺とも言える様な生活。老人が気軽に声を出せる居場所(電話でも、スカイプでも)を是非作って欲しい。	④	よこはま地域包括ケア計画(第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)に基づき、自分らしく健康で生きがいのある生活を送ることができる地域づくりの推進に向けて、地域の見守り・支え合いや居場所づくりを支援し、高齢者の社会参加を進めます。
48	インターネットメール相談は文通みたい送信しても返事が遅い。チャット相談は対応スピードが遅くイライラする。電話相談はつながらない。いつも話中。 困ったときにいつでも正月も深夜も対応してくれるところが欲しい。対面は面倒だしコワイ。困ったときに相談にのって欲しい。相談にのってくれる人が一人の方がいい。	②	様々な悩みの解決に向けて、相談支援の充実や各種専門相談窓口の情報提供を進めてまいります。
49	自殺防止のためには、悩みを相談できる人・機関をたくさん有することが大切。直接話しができることがその人の苦しみが一番わかるはず。しかしそういう人ばかりではない。知っている人には話したくない。親に親しい人に心配をかけたくないなどなど。そういう人が相談できる、いつでも相談できる、愚痴も言える、気持ち吐き出せる、そういうところが欲しい。365日24時間、いつかけても、いつ出かけてもつながる電話相談や対面相談拠点が欲しい。 心のコンビニみたいな場所が欲しい。家に帰りたくない子供達も生きていける場所にもなるだろう。話中でない電話相談、予約をしなくても話しを聞いてくれる人、場所、そういうところが欲しい。	④	いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。
重点施策1 自殺者の多い年代や生活状況に応じた対策の充実			
50	うつ病は自殺してしまう病気です。予防は最善の治療なり。人事は他人事ではなく、人の事の為になることを認識しないとダメです。貴重な人材の命が無駄になる訳であり、自殺者があとを絶たない。重点施策として働き盛りの年代が一番危険です。 会社や職場での管理職の方にメンタルヘルスマネジメントのスキルを最大限に高くする(自主的に)方法がしかり。 それと合わせて組織的な取り組みにおいては、管理職になる時に、または管理職であるならばメンタルヘルスマネジメントの資格(ラインコース)を必須条件にすればいいと思います。 特に公務員の職場から普及していかなくてはならない、なぜならメンタルヘルスにおいて公務員は10年くらい遅れているからです。立場のある人間が気がつかないで一体、誰が気づくとゆうのでしょうか、人間を救えるのは人間です。 管理できない管理職 責任とらない責任職 自殺の問題や要因ではなく、解決に向けての取り組みは、こんな管理職をつくらない事なんだと思います。	②	健康経営の推進に係る取組を通して、地域や職域において活用できるメンタルヘルス等の相談窓口についての周知等を推進していきます。 また、自殺に対する正しい理解や、自殺対策の必要性の認識を深められるよう、基礎研修を通じて、引き続き自殺対策の効果的な普及啓発に取り組んでいきます。
51	40、50歳代の有職者の自殺者が多いという事で、もっと企業に働きかけてもよいかと思います。 例えば、管理職には、労働安全衛生の観点からも、自殺予防の研修などを義務付けるなど、法の整備を望みます。	②	健康経営の推進に係る取組を通して、地域や職域において活用できるメンタルヘルス等の相談窓口についての周知等を推進していきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
重点施策2 自殺未遂者への支援の強化			
52	救命センターと精神科的治療を結びつける環境を整えることが大事であると考えます。	②	引き続き、救命救急センター等へ搬送された自殺未遂者への支援の強化に向けて取り組んでまいります。
重点施策3 若年層対策の推進			
53	若者が自殺をすることは絶対にくいとめなければならない。ネットの世界だけでは解決につながりにくい。リアルな世界(対面・電話)へ、それも信頼できる大人へつながる方法を考えて欲しい。チャットでも難しいが可能性はある。チャットができる大人の人を養成して欲しい。	④	若年層の自殺は深刻な状況であり、若年層の悩みの解決に向けた相談体制の充実が必要であると考えます。 御意見については、今後若年層への支援を実施する際の参考とさせていただきます。
54	若年者対策の推進にあたりインターネットを通じた相談支援体制の整備に期待したい。民間団体が同様の体制を構築することは難しいと思うので中核的な役割を行って欲しい。	②	今後、インターネットを通じた効果的な情報提供、相談支援の構築に向けて取り組んでまいります。
55	メールでも相談でき24時間以内に返事がもらえる所の設置。	②	様々な悩みの解決に向け、インターネットの活用を含め相談手法を検討してまいります。
56	若者が相談しやすいようにメール、ライン相談の開設を望みます。	②	若年層の自殺は深刻な状況であり、若年層の悩みの解決に向けた相談体制の充実が必要であると考えます。 若者の特徴を踏まえ、若年層がつながりやすい相談支援方法を検討してまいります。
57	相談の手段に関しての意見願いです。 私の経験を話しますが、自殺やこころの相談等をしようという時、まず市から探し始め他様々広げていきましたが、どこも相談のアクセス口が電話番号しか記載されておらず相談を諦めることが度々ありました。 電話のみ、または電話をしてから会うという手段ばかりの現状は内向的な者ひいては引きこもりがち者、無職の方の一定にありがちな気質を真っ向から遮断していると感じておりました。 電話しか手段がない現状では、電話できる者の相談しか受け付けないと突き放されているように、見放されているように感じます。 どうか何かを伝えようとする時に、電話という口頭手段だけでなく、文面で先に作ることが出来後から参照することも出来る手段を、長文になりがち者、短文になりがち者、どちらもカバー出来るようにメールやLINEなどいくつかの手段を用意して欲しい。 まず最初に言いたいことをメールで送った者に対して案内をし、それを受け前提を共有してからのLINEでのリアルタイム相談に移行したり、市の施設かPC上での面談を考えるなど、それぞれの手法を組み合わせてたりすることも大事だと思います。 電話と来所しかないのは本当にきつく、手が出ません。 外に行けるにしても、かなり精神や肉体に負担のかかる人もいるので、拾えるように頑張ってもらいたく、ゆくゆくは市の支援センターや窓口など来所の必要がある所も、初回や二回目など最初の方は仕方ないかもしれませんがのちのちは電子上、画面上での相対などの手段も選べるような社会も出来てほしい、46ページのインターネット上で相談できる仕組みの構築を強く応援します。	②	様々な悩みの解決に向け、それぞれに対応する専門的な相談につながるができるよう、インターネットの活用を含め相談手法を検討してまいります。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
58	インターネット相談は重要であろうが、手紙の相談と大きく異ならないと思う。チャット相談が実施している団体が少ない。対面相談や電話相談に長けた人達・団体にチャット相談ができる様支援をしていく事が必要ではないかと思う。通信手段が変化していても大事にするのは共感と受容を基礎にする傾聴に焦点をあてることだと思う。少したてば、チャットも古い通信手段になる可能性がある。面談こそが一番大切と思うが。	④	いただいた御意見は、今後、相談支援を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
59	インターネット等を利用し、若年者が相談しやすい環境をつくること。	②	御意見のとおり、今後、インターネットを通じた効果的な情報提供、相談支援の構築に向けて取り組んでまいります。
60	若者への対策について、インターネット等での相談支援の構築があげられているが、”対話”なくネット上だけの相談はありえません。既存の民間団体(横浜いのちの電話、チャイルドラインなど)との協働など対話を重視した策をつくるべきと考えます。	④	いただいた御意見は、今後、若年層への相談支援を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
61	若年層が電話をしない、インターネットメールも面倒、エクセル、ワードもバツボもしないというのが、現状。また、電話番号さえ持たない若者が増加。仮に電話番号があっても電話番号を相手に教えることの抵抗が大きいと言われている。こういう若者と繋がり、悩みを共感するには、どうすれば良いかというのが、問われている。インターネット相談の現状を見てみると、返信が返ってくるのに数日後というのは珍しくない。また、リフティング広告で電話相談へという動きもあるが、もともと電話をしないか若者だから過度の期待はできない。チャットアプリによる会話は相談開始のハードルは下がるし、即時性はあるが、短文の応答が多いので、感情表現や意思疎通に難点がある。電話相談もインターネット相談もチャット相談を受け手として行ったが、いずれも単独としては一長一短と言わざるを得ない。今、一番効果があると思われる(これは実施したことはない)ものは、チャット相談をして、非常に辛い状況にあると判断した相手に対し、チャット相談の受け手が電話番号(他の電話相談番号とは異なる)をお知らせし、その電話番号にかけてくる様に呼びかける方法であろう。勿論、この時の電話の受け手は、チャット相談の受け手であったものがあたるのが効果的であろう。つまり、電話相談の訓練を受けた人がチャット相談を受けるか、チャット相談の訓練を受けた人が電話相談を受けるかが良いと思われる。但し、歴史のある電話相談の方がノウハウの蓄積が大きいので、まずは前者の方から試みる方が効果的と思う。行政としては、電話相談をしている団体に対してチャット相談できる様にして行けるように支援が有効だと考える。通信手段は時代とともに変化していくが、困難な状況にある若年層の気持ちの変化はないと思う。	④	いただいた御意見は、今後、若年層への相談支援を実施する際の手法検討の参考とさせていただきます。
62	若者の自殺者には発達障害を抱える者が少なくない。(特に学力的には問題のない高機能の)もともと横浜市は発達障害に対する支援が薄いと思われるが、自殺予防の視点からも、発達障害を抱える若者の支援が必要ではないか。	④	市内1か所に発達障害者支援センターを配置し、生活や就労等の相談支援を行っています。また身近な区役所では、発達障害の特定相談日を設け相談支援を行っております。今後も発達障害者支援に向け、様々な施策を検討していきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
63	<p>重点施策 若年層対策の推進について「インターネットを通じた効果的な情報提供」とありますが、具体的な施策内容の記載が必要に思います。 例えば、厚生労働省がネットで労働法を漫画で説明するといった取り組みを行っていますが、このような敷居が低くわかりやすい方法で情報を公開するような形を想定されているのでしょうか。</p>	②	<p>若年層がつながりやすい相談支援方法として、インターネットを通じた情報提供・相談支援の構築を進めます。 例えば、インターネット上で「自殺」に関わるキーワードの検索に即応して相談窓口を表示する仕組みやインターネット上で相談できる仕組みなど、若年層の悩みの解決に向けた取組を進めてまいります。</p>
64	<p>情報伝達・通信システムの変化が、相談という行動が変わってきていると実感します。知り合いや宗教指導者に面談→新聞や行政へ文字(手紙)による相談→電波・電話による相談→インターネットメールによる文字での相談→LINEなどのチャットSNSによる文字での相談へ。今後はどう変わっていくか予想もつかない感じがします。相談に求められるのはツールではなく、面談・傾聴etcの長けた人にかかっていると考えます。広範囲な知識を備えた「人に寄り添える」人を育成し、困難な問題を抱えた人の仰ることを丁寧に聴くことができる人の養成が必要で、その人達にツールの使用のノウハウを提供し、インターネット相談・チャットSNS相談から電話相談や面談対面につなげていくための支援を行政が為す必要があるかと思えます。行政の縦割り専門性もいいですが、汎用で人のぬくもりのある制度の構築を願います。</p>	②	<p>自殺対策の推進には、本市の自殺の状況や自殺をめぐる諸情勢、社会全体の状況の変化などを踏まえた対策が必要であると考えます。 ② 本計画においては、若者等の特徴を踏まえ、インターネットを活用した情報提供・相談支援の取組を進めるなど、電話や対面相談も含めた相談支援の強化に向けて、検討を進めてまいります。</p>
65	<p>お子さんが追い込まれる背景に、親の対応、家庭の事が大きく作用していると思っております。地域社会の問題として、課題を明確にしていく先に、方策が見えてくるように思います。</p>	④	<p>若年層の自殺は深刻な状況であり、若年層を取り巻く問題の解決に向けた取組の推進が必要であると考えます。 ④ 御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
66	<p>苦しさを抱えている人のサインをキャッチする入口の一つとしてインターネットの活用があり、そこから相談につながっていくと良いと思います。</p>	②	<p>② 今後、インターネットを通じた効果的な情報提供、相談支援の構築に向けて取り組んでまいります。</p>
67	<p>まずは、皆を型に嵌める教育、追い詰められる教員の職場環境の改善を。教員に教育だけを考えられる環境を作って欲しい。余裕が出来た教育者は、子供達の個々を、内面を絶望から救う力があるはずなのだから。</p>	④	<p>④ 教員の職場環境を改善していくことは非常に重要であると考えます。 教職員の働き方改革をはじめとした取組を進め、教員の職場環境を改善してまいります。</p>
68	<p>重点施策3 若年層対策の自殺対策学校出前講座については、特に教職員に対し、メンタルヘルスの理解と対応を学ぶための心理教育が、有効と考えます。 死なない＝自殺していない状態だけではなく、折れない心を育て、生きるための支援をすることが、若者の自殺対策には、必要です。 自殺対策ではなく、メンタルヘルスの理解を教職員、全員にまず行うことが、本当の自殺対策になると考えます。</p>	④	<p>④ 毎年、教職員向けに横浜市カウンセラーアドバイザーからの提供資料「自殺予防の基礎知識」を配付し、学校で研修の機会を設けるように依頼しています。 御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
69	<p>学校医に精神科医師を配置し、自殺、自傷や不登校、暴力等への対応について教職員向けに、思春期の心を理解する心理教育を実施し、生徒や児童のことを、学校医の精神科医師に、随時相談できる仕組みが、横浜市内の中学高校全校に、できると、自殺予防につながると考えます</p> <p>自殺しないだけでなく、メンタルヘルスが向上し、若者が自己肯定感が上がる取り組みは、実効性のある自殺対策になると思います。</p>	⑤	<p>現在、教職員の心理教育や相談体制整備は、管理職がリーダーとなり、児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭や学校カウンセラー・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを中心に行っています。必要に応じて、保健福祉機関等の専門家と協働したり、教育総合相談センター医療相談や医療機関等と連携したりしながら指導や助言をいただいています。また、教育委員会では、研修や講演会を開催し、児童生徒の心理・発達障害、不登校、希死念慮や医療との連携について、教職員が医師等から学ぶ機会を設けています。</p> <p>さらに、医療、心理、福祉、法律の専門家等を学校に派遣する支援も行っています。</p>
70	<p>若者の自殺予防について 精神疾患発症リスク(=自殺リスク)が高くなる高校生に対する支援案がない。高校にもSCを配置しているようだが、施策にないのはなぜか？(県立、市立の兼ね合いか？)</p>	①	<p>市立高校においては全校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の様々な相談に対応しています。御意見を踏まえ、追記いたします。</p>
71	<p>(2)「横浜プログラム」を活用した SOS サインの出し方教育を始めとする、子どものこころの悩みへの対応 当事者団体参加者が行っているいじめ対策推進プロジェクトの指針、取り組みの紹介と提案を希望する。自殺予防の授業の開発と実践の参考となるものと確信する。 いじめ案件が起きた時の、学校の対応への提案、いじめられた側、いじめた側、両者に対するカウンセリングの手法、仕組みづくりの提案をしたい。教員研修に当事者団体での事例報告および提言を伝えるような機会を設けていただくことを提案する。</p>	④	<p>御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
72	<p>児童がSOSを出す方法を知らないからSOSを出さないのか、SOSを出していつのに気が付かないのか、児童がSOSを出す適当な相手をも持ち合わせていないのか、またSOSを出すことを避けているのかの見極めが必要。ただ、通信方法にだけにこだわって考えるのは問題と思う。児童が本当の気持ちを言えるような環境作りが大切。通信方法はそのうちのひとつの考えで良いと考える。スクールカウンセラーを設置することで安心しないで、誰でも良いから、信頼できる大人につながるができるかと知ってもらうこと大切。勿論、一番身近な人につながるのが一番だと思う。弱音を吐いてもいいのだ、辛いと思っても言ってもいいのだ、助けてと言ってもいいのだ、そういうことが普通になる様に環境作りが必要と考える。</p>	④	<p>すべての子どもが、必要に応じて、適切な相手、手段でSOSが発信でき、また、それを受け止めることができる必要があると考えます。 御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
73	<p>生きづらさに共感できる価値観の醸成には、教育段階で当たり前のように生きづらさを感じる経験を、いかに沢山出来るかも大きいと考えます。 今後、より本質的なインクルーシブ教育が進んで行くことを望みます。それは広く捉えれば自殺対策とも言えると思います。</p>	③	<p>引き続き、国のインクルーシブ教育システム構築の考え方を踏まえ、適切な教育の場の提供に努めてまいります。</p>

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
74	素案の中には高校生年齢の子どもたちの支援が薄いように感じました。 スクールカウンセラーの全校配置についても高校生については記載がなく(HPでは高校にも配置されているような記載有。全校配置かは不明)、精神疾患の好発年齢にあたる年代だからこそ早期に支援の手が差し伸べられる必要性を強く感じます。	①	市立高校においては全校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の様々な相談に対応しています。御意見を踏まえ、追記いたします。
75	男性の自殺が多いようですが、特に日本の高齢男性は世界的に見ても孤独に陥っているという文献もあります。女性に比べて自分の悩みに、弱み、困り事を他人に話すことが少ないのだと思います。幼少時からコミュニケーションの大切さや失敗・劣等感などを自己否定に直結させない考え方を学校の道徳、未就学児には絵本などで取り入れてはどうでしょうか。	③	「個性の伸長」「希望と勇気」「よりよく生きる喜び」といった学習を通して自己肯定感を高めたり、「生命の尊さ」について学習したりする「特別の教科 道徳」を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行っています。 また、乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎を培う重要な時期です。 この時期にコミュニケーションの大切さや自己肯定感を育むための環境の一つとして、絵本などを取り入れることは大切なことと考えています。
76	学校カウンセラーはすばらしい制度だと思いますが、相談したい子どもが利用するだけでなく、子ども全員が自分の悩み、不安などを話す機会を設け、自分のことと家族だけでなく、他人も受け止めてくれる経験をしておくことで、成人してから、本当に困った時に、誰かに相談するという行動にも繋がるのではないのでしょうか。	②	すべての子どもが、社会的な困難や強い心理的な負担を受けた場合などにおける対処の仕方を身につけることができるように、SOSサインの出し方等に関するプログラムを展開します。
77	若年層対策の推進に関して 高校生に対する対策がされているのか。明記されていないだけかもしれないが、その場合はされた方が良いと思われます。電話相談に対応するのは、専門性のある方なのか、気になりました。	①	市立高校においては全校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の様々な相談に対応しています。御意見を踏まえ、追記いたします。 また、青少年の総合相談や各区福祉保健センターの相談窓口では、専門職による電話・来所での相談を実施しております。
78	「死」しか選択肢がないと思わないでいられるような社会の実現のためには、学校の授業でも、SOSが出せる場がいろいろあること、SOSは躊躇せず出していいいこと等を学べたり、公共広告機構などのCMで発信していたり、SOSを待つのではなく、SOSをつかみに行く位の普及啓発も必要だと思う。	④	すべての子どもが、社会的な困難や強い心理的な負担を受けた場合などにおける対処の仕方を身につけることができるように、SOSサインの出し方等に関するプログラムを展開します。 御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。
79	小中学生への対策はできつつあるが、高校生・大学生への対策がみえてこない。	①	市立高校においては全校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の様々な相談に対応しています。御意見を踏まえ、追記いたします。 また、大学生への対策としては、学生生活や進路等の様々な悩みを抱える学生に必要な支援につなぐため、大学教職員を対象にした研修などの取組について検討を進めてまいります。
関連施策			
80	関連施策一覧によると、62の施策が実施されているようです。新しい対策を講じるのも必要ですが、せっかくある現在の多くの施策を生かし、関連施策についてそれぞれ効果が生じているのかどうか。生じていないなら効果を上げるにはどうしたらよいかを検証するシステムを作ってはどうか。	④	総合的な自殺対策の推進のためには、庁内の各部署が自殺対策の視点を持って業務を行うことが必要でありますので、「庁内自殺対策連絡会議」などを通じて、認識の共有、取組状況の確認を行ってまいります。いただいた御意見については、計画の進行管理の参考とさせていただきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
81	大変良い取り組みだと思います。また、素案も良くできていると評価します。今後、注意すべきは、各部署の連携です。本取り組みは自殺をキーワードに、うつや社会的に困っている時の受け皿になり得るものです。よって、多様な要望と状況があるでしょう。1つの窓口が、適切に担当部署に割り振り、それぞれが機能することが理想です。また担当課だけではなく民間団体との連携も必要でしょう。民生委員だけではなく地域にあるNPOと連携することでこぼれ落ちを防ぐことができます。	②	御意見のとおり、自殺対策の推進のためには、庁内の各部署が自殺対策の視点を持って業務を行うことが必要でありますので、「庁内自殺対策連絡会議」などを通じて、認識の共有を図ってまいります。また、市内を中心に活動する関係団体等と行政で構成する「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」にて、自殺対策に関する情報や各団体の取組の共有を進めることで、連携を深めてまいります。
その他			
82	概観 施策のゴールは非常に同意できる点ではあるのですが、全体的に具体案が記載されておりませんでしたので、施策の具体案を示すことが必要に思います。	②	本市では、「基本施策」、「重点施策」、「関連施策」の3つの施策により自殺対策の取組を進めます。国が全国的に実施されることが望ましいとするもので、本市でもこれまで取り組んできた5つの施策や本市の自殺の特徴を踏まえた3つの重点施策、自殺対策につながる各区局の関連施策により、総合的に自殺対策を推進してまいります。
83	意見募集方法について まっさらな状態から文章を記載する必要があるため負担が大きいと感じました。 このようにされた意図もあるかとは思いますが、より手軽な方法で応募できればより多様な意見が得られるのではないのでしょうか。例えば、今回は概要版のきれいなデザインのパンフレットを見て送付をしましたが、メールアドレスが長くて確認が大変でしたので、パンフレットにQRコードをつけて、送付先メールアドレス込みでメーラーを開けるようにしておくですとか、またはメールではなくWebフォームにして、あらかじめいくつか設問を用意しておき、そこに文章で答えていく形であれば、より意見送付のハードルが下がるように思いました。	④	いただいた御意見は、市民意見募集やアンケート調査などを実施する際の参考とさせていただきます。
84	多くの自死者がネットの検索をしていると思います。実際はどうですか？しっかり統計を取って下さい。そしてサイトの制限をしてください。「楽に死ぬることが出来る」と言っている人は死んでいません生きています。辛い時にそれにすがって亡くなった人がどれだけいるか。このような恐ろしいインターネットサイトを野放しにしていることが許せません。	⑤	本市においてサイトの制限を行うことは困難ですが、警察も含む自殺対策に取り組む支援団体とで構成する「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」等において、いただいた御意見については共有させていただきます。
85	私の娘は亡くなる直前にネットで どうすれば楽に死ぬるか、絶対に失敗しない自殺の仕方というのを見ていました。死んだことがない人が何をいっているのだろう、と本当に悔しい気持ちで私も見ました。 こういう情報をネットから消すことはできないのでしょうか。 こういう人を不幸に導いて喜んでような情報を載せないでほしいと思います。	⑤	本市においてインターネットサイトの制限を行うことは困難ですが、警察も含む自殺対策に取り組む支援団体とで構成する「よこはま自殺対策ネットワーク協議会」等において、いただいた御意見については共有させていただきます。
86	市の係の人達がこれだけの案を練っているのに自殺者がおきていることは時代のせいだと思います。それをどうして防ぐかというよりはまず家族の挨拶から始めて、近所、友達、職場、でもこれが出来ないのです。でも自分自身に活を入れて一歩から始まると思います。子供の頃から始めればそう難しくないと思います。	④	いただいた御意見は、今後、施策検討の参考とさせていただきます。

「横浜市自殺対策計画(仮称)」素案に対して寄せられた市民意見と市としての考え方

	意見	対応方針	市としての考え方
87	<p>孤立を防ぐことが自殺対策かといわれると疑問もあります。とある町と似たような町で自殺率を調べてその違いはというと普段の挨拶をしない方の町が自殺率が低いことがわかったというデータがありました。フィンランドは幸せ度が世界一でもあり、自殺対策に成功した国でもあるわけですが、オープンダイアログがあるからというわけではないそうです。</p> <p>日本ではゲートキーパーを増やすことを考える地区が多いと思いますが、私はそれ以前の問題だと思います。増やしたから自殺しなくなってもそれを自殺率が低くなったというはとても悲しく感じます。自殺そのものを考えなくてすむように心がけることの方がよっぽど大事かと思う。数字ではなく何を大事にするか、死と健康とあつたらどちらを優先することが良いのか？森田療法の考え方になるが生きなければと思えば思うほど死を意識してしまう。命を大事に考えすぎる日本も何を大事にするかを考えてほしい。病院のない町ほど健康な人が多いのと同じだと思う。</p>	④	<p>誰もが自殺に追い込まれることのない社会の実現のため、市民等への普及啓発や人材育成を推進してまいります。</p> <p>いただいた御意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
88	<p>「自殺」がつかないネーミングをつけて欲しい。みんなが「そうそう！」と近寄ってくるような。</p> <p>「生き抜く／息抜くプラン」生きづらさは病気じゃなくても感じる人、きっと多いですよ。息を抜ける相手や場所がある、というのは誰にでも必要でしょう。多くの人にわかってもらわなくても一人でも自分を受け止めてくれる人がいるのは心強いですよ。</p>	①	<p>いただいた御意見の趣旨を踏まえ、計画名称に加え、計画の趣旨等を表す副題を追加いたします。</p>
89	<p>p2 に我が国の自殺者数の記載がある。“平成22年に3万人を下回り、その後は減少傾向が続いている”とあるが、毎月の当事者団体の活動には、10代、20代の子どもを自死で喪った新規参加者が必ず一人はいる現況を鑑みたとき、現場では全くその実感がない実情がある。</p> <p>2010年10月から活動スタートしたが、今現在、毎月15人から18人の参加者がコンスタントに集う。この数字は、行政主催の分ち合いの会と比べるととても大きい数字であることがわかり、当事者に必要とされている会であることの証であると言える。</p> <p>当会では、毎月の分ち合いを主体とした定例会の他に、講演会、勉強会を開催してきた。特に、勉強会では、生まれ、そして自死で逝った子どもたちへの理解を深めると同時に自身の悲しみへのあり方を学んだ。また、最もフォローがされにくい、遺された兄弟・姉妹の会も不定期ではあるが、開催をした実績がある。このような、当会での活動の実績から、以下のことを提言する。</p> <p>④ 行政と当会の協働による、自死対策の展開</p> <p>⑤ 当会参加者の子どもたちのほとんどは真面目でおとなしい子どもたちだった。そういう子どもたちへのいじめ予防、自死対策への提言、プログラムの提案をさせていただきます。</p>	④	<p>若年層の自殺は深刻な状況であり、若年層を取り巻く問題の解決に向けた取組の推進が必要であると考えます。</p> <p>御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
90	<p>私の夫は今から15年前に自死しました。その時、一人っ子の娘は17歳でした。その娘もそれから10年後の27歳の時に自死しました。</p> <p>今思うのですが娘にとって、父親の自死は自身の死に対してのハードルを下げたのだと思います。</p> <p>「死にたい」「生まれ変わりたい」「リセットしたい」娘の口から出た言葉にちゃんと向き合っていればと後悔しています。娘が自分の死に場所を決めてきたときのホッとした顔。何時でも実行出来るんだという安心感。</p> <p>引きこもりの時よりも少し元気になった時の方が危険。</p> <p>今、少しわかったような気がします。</p>	⑤	<p>本市では、引き続き、自死遺族への支援など総合的な自殺対策を推進してまいります。</p>